天神書簡－福岡事務所便り－

meets! まつら

～食と歴史で深まる交流～
松浦を「知る」「歩く」「食べる」

松浦市福岡事務所では、第3期福岡都市圏交流促進基本計画（平成29～31年度）を策定し、「食と観光のまち松浦」の実現に向けて福岡都市圏との交流を進めており、特に、食と歴史をテーマとした交流を拡大するため、松浦を「知る」「歩く」「食べる」といった三つの視点で取り組んでいます。

5月1日には、元寇史跡が縁で「元寇防塁」がある福岡市西区の今津校区自治協議会と松浦市とで交流連携協定を結んで交流を開始したのをはじめ、松浦食材イベントや料理教室の開催など、福岡と松浦の出会いと交流の場が益々広がりをみせています。

◀今津公民館（福岡市西区）に新設された松浦市情報発信コーナー（元寇遺物や松浦市の観光パンフレット等を展示）

◀みんなの子育て広場 URACCO で開催された松浦の食材を使った「福岡発！まつらパスタ」のランチ会

問合せ先

松浦市福岡事務所
☎ 092-406-2180
✉ matsuura.f@city.matsuura.lg.jp

わたしたちの郷土 135巻

「遺跡発掘師は笑わない ―元寇船の眠る海―」

鷹島を舞台とした小説が出版されました。桑原水菜先生の原作で、本のタイトルは、「遺跡発掘師は笑わない―元寇船の眠る海―」です。遺跡発掘師は笑わないシリーズは、既に5作品が出版されており、今回が6作目となります。執筆に先立ち昨年の9月に取材にみえられ、埋蔵文化財センターでは資料の提供など全面的に協力をさせていただきました。

物語は、鷹島海底遺跡の発掘調査を中心に、個性豊かな登場人物が関わり、出土遺物を巡る事件が発生するミステリー小説です。主人公の天才発掘師西原無量、無量の幼馴染で元文化庁職員の相良忍、無量の所属する発掘派遣事務所の永倉萌絵らが活躍し、鷹島を始め、伊万里、唐津などでストーリーが展開していきます。

小説の中には、「無量が向かったのは「道の駅」だった。鷹島肥前大橋のたもとにあり、鷹島の玄関口にあたる。名物の養殖フグを模したオブジェが並んでいる。」、「落ち合う場所に指定してきたのは宮地嶽史跡公園だ。」、「忍が向かった先は鷹島にある歴史民俗資料館だった。」、「殿ノ浦港を過ぎて、小さな集落に入る細い坂道を降りたところに、その神社はあった。市杵島神社とある。」など、実在する場所が多く登場します。

また、出土遺物についても「丸い陶器製のかたまりだ。『てつはう（鉄砲）』という。」、「海岸で見つかったパスパ文字の管軍総把印だって」など重要なキーワードとして登場しており、大変興味深い内容になっています。

この作品は2部の構成となっており、続巻は7月25日に発売の予定で、更なる展開が期待されます。この機会に、舞台となった鷹島の「聖地巡礼」はいかがでしょうか。

※「聖地巡礼」：アニメや漫画などの作品の舞台となったとされる場所やゆかりのある土地に、実際に訪れること。

▲「遺跡発掘師は笑わない－元寇船の眠る海－」と桑原先生のサイン

Goodbye and thank you Matsuura
ー さようなら　そして　ありがとう　松浦ー

こんにちは！
外国語指導助手です。

HELLO! ALT

クリスティー・マツカワ
Christie Matsukawa
アメリカ出身

７月末に松浦を離れることになりました。
５年前、松浦に来ることが決まった時、新しい生活が始まる緊張と期待で胸がいっぱいだったことを覚えています。松浦に到着した時は、こんなに長く滞在することになるとは思っていませんでした。松浦では、よさこいのチームに入ったり、かわいい子ども達に英語を教えたり、一緒に遊んだり、先生方や地域の人たちと話をしたり、地元のレストランで美味しい刺身や料理をいただいたり、色々なことを体験しました。
松浦に来た理由は、まず第一に仕事のために、それから、英語を教えながら日本語を学べる機会があるということでした。しかし、その後、一人の校長先生と出会い、私がここにいる理由に気付かせてくれました。その校長先生は、「もちろん、あなたのお仕事は英語を教えることなんだけど、本当のお仕事を知っていますか？子どもの心を開くことです。」と私に言いました。先生は、子ども達について話してくれたのですが、私は自分の生活スタイルに対する言葉として、その言葉を松浦に滞在する理由にしました。

この５年間、自分が何なのか、どのようになりたいのか、何をしたいのか、何がほしいのかを考えることができました。人との関わり、周りの人々を理解することの大切さ。若い人も、年老いた人も、悪い人も良い人も、他人も、友達も、とにかくここで出会えた全ての人々が、私の人生にとって意味があり、いつまでも感謝し続けることでしょう。だから本当に「ありがとうございました！」 松浦は私の人生の一部となり、私は人生の次のステージへの踏石となってくれたここでの経験を忘れることはないでしょう。
夢は追い続けるものであり、幸せは自分で決めるものだと思います。これからもいろんな国の言語や社会について学び、自分の能力と経験を世界の人々に教えたいと思います。そして、将来的には自分の母国、アメリカと日本を行き来して生活をしていきたいです。

皆さん、ありがとう。さよならを言うことはとてもつらいです。皆さんの幸せを祈っています。そしていつかまたお会いできることを願っています。

図書館のおすすめ BOOK 本

きらポン

市立図書館
☎ 0956－72－4677

松浦市ホームページで「松浦市立図書館」を検索

土日、祝日も開館しています。（年末年始、臨時休館を除く）

『機械加工が一番わかる』
平野利幸／著　技術評論社
ISBN 978-4-7741-8498-2
http://gihyo.jp/book/2016/978-4-7741-8498-2

私たちの暮らしは無数の機械に支えられていますが、それらはどんな工程を経て作られるのでしょうか。
本書は、機械加工を実践する上で必要な情報を端的に紹介。複雑な形状の製品を生み出す技術に触れることができます。

『知ってる？ソフトボール』
齊藤優季／著　ベースボール・マガジン社

小学生の強豪チームの監督が、基本の技術やルールについて身近なものを使ったクイズと豊富な写真で分かりやすく解説。
ソフトボールを極めたい人、ルールをおさらいしたい人、そして、これから始める人にも最適の一冊です。

図書館のなぞ③　館内にあるはずなのに…　～見落としがちな本の置き場所～

「検索結果票」を見ると、きらきら号でも書庫でもなく、フロアの棚に置いてあるはずなのに見あたらない。館内で誰かが読んでいるのかな？それとも探し方がよくないのかな？……という経験はありませんか？こんなときは、出入口そばの「今日返ってきた本も借りられます」のコーナーを確認してみてください。あなたが探している本は、返却処理がされたばかりの本かもしれません。

≪ポイント≫
返却処理されたばかりの本は「今日返ってきた本も借りられます」のブックトラックにあります！
※「ブックトラック」とは、本を運ぶ台車のことです。

その日に返された本は、カウンターで返却処理を済ませた後、写真のブックトラックに集めます。さらにその後、決められた棚に職員が戻します（この作業を「配架」と言います）。本を探すときは、このコーナーも忘れずにチェックしてくださいね。